

学校保健論	3年・後期 (夏季集中)	2単位 30時間	非常勤講師 新井 淑弘
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33420973

### 1. 授業のねらい・概要

学生は、学校教育目標の具現化としての学校保健の位置づけを理解し、学校保健の実践が児童生徒の発育・発達にどのような役割を担っているかを学ぶ。学校保健の意義と目的、行政と学校保健、法規に基づく学校保健の内容と組織、保健主事や養護教諭等の関係職員の役割などについて具体的な実践例を通して学習する。

### 2. 学修の到達目標

1. 学校教育活動における学校保健の位置づけを理解し、調整することができる。(D-2)
2. 学校保健の意義と目的を理解し、関連法規に基づく保健教育活動をデザインできる。(D-2)
3. 学校保健を担う関係職員の役割や機能を理解し、学校保健活動全体の調整ができる。(D-2)
4. 学校保健における各項目について、講義で得た知識をもとに推進計画を作成できる。(D-2)
5. 学校保健の全体像を理解したうえで、学校保健年間計画を作成できる。(D-2)

### 3. 授業の進め方

講義および演習を中心に進める。

#### 【アクティブ・ラーニングの実施】

グループワークやリフレクション等を取り入れたアクティブ・ラーニングを行う。

#### 【ICTの活用】

PCやタブレット端末、スマートフォン等を用いた調査型の学習や、グループワーク時の「学生-学生」間および「学生-教員」間のデータ等の送受信等にICTを活用する。

### 4. 授業計画（講義・演習）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	学校保健の目的と意義，領域構造，各領域の担当者等	講義	予習：学校保健ハンドブック第1章を読んでおく。 復習：学校保健の領域構造およびその担当者についてまとめる。	新井淑弘
2	学校全体で取り組む保健教育 各地域組織との連携	講義	予習：学校保健ハンドブックの第1章を読んでおくこと。 復習：学校内外の組織等との連携についてまとめること。	新井
3	学校保健組織活動，学校保健・安全の計画	講義	予習：学校保健ハンドブック第1章第3節，第4節をよく読んでおくこと。 復習：各自で学校保健・学校安全の年間計画を作成してみる。	新井
4	児童生徒の発育発達，疾病異常等（小児保健を含む）	講義	予習：学校保健ハンドブックの第8章を読んでおくこと。 復習：学童期の発育・発達の特徴についてまとめ，その時期に発生する健康障害について，発症頻度や重症度別にまとめること。	新井

5	児童生徒の健康状態の把握と指導（健康診断，健康観察等）	講義演習（AL）	予習：学校保健ハンドブック第12章を読んでおくこと。 復習：健康診断・健康観察の意義とその活用する方法についてまとめを行うこと。 アクティブ・ラーニングとしてグループワーク，リフレクションを行う。	新井
6	学校における感染症の予防と対応	講義	予習：学校保健ハンドブック第9章を読んでおくこと。 復習：学校における感染症の既存の対応方法についてまとめ，新しい感染症が流行した場合の学校としての対応方法について，自分の考えをまとめておくこと。	新井
7	児童生徒の精神の健康	講義演習	予習：学校保健ハンドブック第10章，11章を読んでおくこと。 復習：学齢期に発生しがちな心の問題についてまとめる。自殺やいじめの発生事例や対応についてまとめ，その予防方法について自身の考えをまとめること。	新井
8	喫煙，飲酒，薬物乱用防止教育	講義	予習：学校保健ハンドブック第5章を読んでおくこと。 復習：現在日本国内で行われている喫煙・飲酒教育についてまとめ，これから不足する内容について予想して，対策を考える。薬物乱用については，その有効な教育実践についてまとめること。	新井
9	食育の推進と学校給食	講義演習（AL）	予習：学校保健ハンドブック第6章を読んでおくこと。 復習：現在の学齢期の子どもの食の傾向をまとめ，より良い食に関する教育実践について考察する。 アクティブラーニングとしてグループワーク，リフレクションを行う。	新井
10	がん教育	講義	予習：学校保健ハンドブック第7章を読んでおくこと。 復習：がんに関する知識の追加補充，がん関連施設との連携の具体的な方法について検討を行い，まとめること。	新井
11	障害のある児童・生徒への健康上の支援	講義	予習：学校保健ハンドブック第13章を読んでおくこと。 復習：学校教育で問題となる「児童・生徒の障害」についてまとめでそれぞれについての既存の対応方法をまとめること。さらに，新しい問題について考察すること。	新井
12	学校環境衛生	講義演習（ICT）	予習：学校保健ハンドブック第14章を読んでおくこと。 復習：学校環境衛生測定に関してその実施方法についてまとめること。また。新しい学校環境衛生に関わる問題が発生した場合に重要となる考え方や行動について考察すること。 PC やタブレット端末，スマートフォン等を用いた調査型の学習を行う。	新井
13	学校安全①（学校における事故・災害とその防止等）	講義	予習：学校保健ハンドブック第15章を読んでおくこと。	新井

			復習：学校における安全活動の構造についてまとめて、その発生の防止や被害拡大を防ぐ方法について考察する。	
14	学校安全②（安全教育，学校の防犯等）	講義	予習：セーフティプロモーションについて調べておくこと。 復習：学校活動全体で行うセーフティプロモーションについてその在り方や，効率の良い運営について考察すること。	新井
15	応急手当（心肺蘇生法，包帯法等）	講義	予習：学校保健ハンドブック第16章を読んでおくこと。 復習：新しい心肺蘇生法や応急手当についてまとめ，学校内での実施環境について考察する。	新井

## 5. 成績評価の方法・基準

ミニレポート等：30点，定期試験等：70点により総合的に評価する。ただし，どちらか一方でも合格基準（各要素の60%）に満たない場合には，単位認定できない。定期試験の実施方法，出題範囲および出題方法は事前に口頭で提示する。ルーブリックについては授業時間内に説明する。

## 6. テキスト・参考文献

教科書：①教員養成系大学保健協議会（編）学校保健ハンドブック 最新版

②衛藤隆・岡田加奈子（編集）学校保健マニュアル 南山堂 最新版

## 7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

各回の授業受講までにテキストを使って予習をしておくこと。各項目の予習および復習にそれぞれ60分～90分程度の時間が必要となる。

## 8. 受講上の留意事項

授業時間中のスマートフォンやタブレットの使用は，教員からの指示があったときのみ使用可とする。それ以外はカバン等の中にしまっておくこと。PCでのノート作成は可能だが，インターネットに接続するのは教員の指示があったときのみ可とする。

## 9. 課題に対するフィードバックの方法

レポートや試験の出題意図や解法は授業時間内に口頭でフィードバックを行う。

## 10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

保健師教育課程・教職必修科目であり，履修要項・学生便覧35～39ページを参照すること。

## 11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

該当しない。